

安全講習 話のネタ

1 安全運転の秘訣

- 人にはそれぞれ身体的、生理的機能（視力）、動作的機能（動作の速い遅い）、知的能力（覚えたり、身に付けたりするための基礎知識）、性格、気質（神経質、短期、協調性等）が異なっている。

この中で、動作機能(動作の速い、遅い)が安全性の鍵を握っている。この安全性を支えているのは動作の速さではなく、正確さである。たとえ動作が遅くともその場にふさわしい正確な動作のとれることが安全運転につながる。

- 危険に遭遇してからあわててそれを避けようとしてもダメで、先への読みが間違いなく上手にでき、一刻も早く危険であることを知ったならばそれに接近してはならないのである。

碁や将棋と同じで、一手でも二手でも先への読みができる方が勝ちである。

そのままの速さ、そのままの状態で行進したら危ないのではないかとの読みができたときには、行動を中止するか、危険を避けるよう行動しなければならない。

動作が正確な人→確認・判断機能 \geq 動作機能→安全行動→無事故運転者

動作誤りが多い→確認・判断機能 $<$ 動作機能 →不安全行動→事故運転者

2 防衛運転とは

交通事故を起こさないよう交通ルールを守って積極的に安全運転に努めるのみではなく、他の交通による攻撃（無謀運転、歩行者の飛び出し等）に対しても、これを回避し得るような慎重な運転をすることである。

3 運転者の心理と防衛運転について

運転に関する生理的特性

運転とは、認知→判断→操作の反復行動である。

具体的に言えば

- 危険な障害物を発見する（危険と感じる）
- ブレーキをかけるべきだと判断
- 行動に移る（制動）

となることである。

運転には五官の他に平衡感覚が必要である。一般に運転に関する情報の90%は目から入るといわれており、交通事故の60~65%は見ることのミス（注意能力の限界を越えた見ることのミス）により発生している。これをカバーするのが、速度調整等による防衛運転である。

車を運転する上で絶対に知ってほしいことは、

- 反応時間の特性
- 視覚の特性

であり、これらを熟知した上での防衛運転なる。

※ 認知のための器官（五官の作用）

視覚~60% 聴覚~20%

触覚~15% 嗅覚~3%

味覚~2%

※ 事故原因の割合

判断のミス~25~30%

技術的なミス 5~15%

4 運転行動における「注意」について

(1) 兼好法師の教訓・・・「高名の木登り」

木登り名人といわれた人が、人を指示して高い木に登らせ梢を伐らせた際、

高いところに昇っている間は何も言なかつなが、降りるとき軒の位の高さになってから「過ちをするな、気をつけて降りろ」と声をかけた。

それを聞いていた人が

「これくらいの高さになれば、飛び降りても降りられるだろうに、
どうしてそんなことをいうのか」

といったところ、名人は

「そうなんです、危ない間は恐ろしくて自分で気をつけるから何もいい
ません。過ちは楽な気持ちになってから必ず起こします。」

と言った。

この話は、この話は、失敗あるいは不注意といわれる現象についての、心理
的原因の本質を射たものである。

○ 安全管理に関する三つの教訓

人は

- (1) 緊張が解けたときに失敗しやすいものである
- (2) 過度の緊張時にも行動がスムーズにできなくて、失敗しやすい
- (3) 失敗を防止するには、適切なときに適切な注意を与えなければなら
ない 助言の時期を誤ると逆効果になる場合がある

5 運転開始にあたって気をつけること

(1) 睡眠不足、仕事疲れ、病気、心配事など、心身に異常があるときは運転を避け
る。

(2) 車両の整備を怠らずに行い、異常がある場合は、それが軽微な故障で運行に支障
が無いと思われても、絶対に運転しない
特にハンドル、ブレーキに重点を置き、また前日の運行の際異常が認められた
箇所は、念入りに点検する。

6 一般的な走行上の注意

- ア ゆとりを持った運転と予備制動の励行
- イ 走行中は数台前の車の動向に注意する
- ウ 大型車の直後の運転は避ける
- エ 渋滞道路における大型車の側方通過の際は、大型車の車体床下等から透視するなどして歩行者の有無を確認すること
- オ 目視の他、後写鏡等を活用して、後方の状況を良く確認しておく
- カ 他車との競争心は絶対に起こさない
- キ 右左折、進路変更は余裕を持って行う
- ク 信号機の信号にも絶対の信頼はおかない
- ケ 見通しのきかない交差点等を通行するときは、確実に減速
- コ ギヤチェンジについて、見通しのきかない場所では控える
- サ 運転中は、運転席の窓を少し開けておく
- シ 子供、老人の歩行者には特に注意する
- ス 他車の側方を通過する際は、十分な間隔を保つ
- セ 駐車車両についても十分注意する
- ソ 交差点等で右折待ちの際は道路の中央に寄り、ハンドルを切らず、ブレーキ停止状態を保つ
- タ 信号停車等の際はサイドブレーキを引き、ギヤはニュートラルにしておく。
- チ 走行中は車間距離を十分にとり、また、前車に続いて停車するときも十分な間隔を開けておく。
- ツ 踏切通過はローギヤで、一定の速度で走行し踏切を通過し終えるまではギヤチェンジはしない。
- テ スピードは走行中に慣れて、感覚がわからなくなり易いので時々速度計を見る癖を付ける。